

福岡市総合図書館

映像ホール

FUKUOKA CITY
PUBLIC LIBRARY
MOVIE HALL

シネラ

NEWS

1

JANUARY

1999 No.30



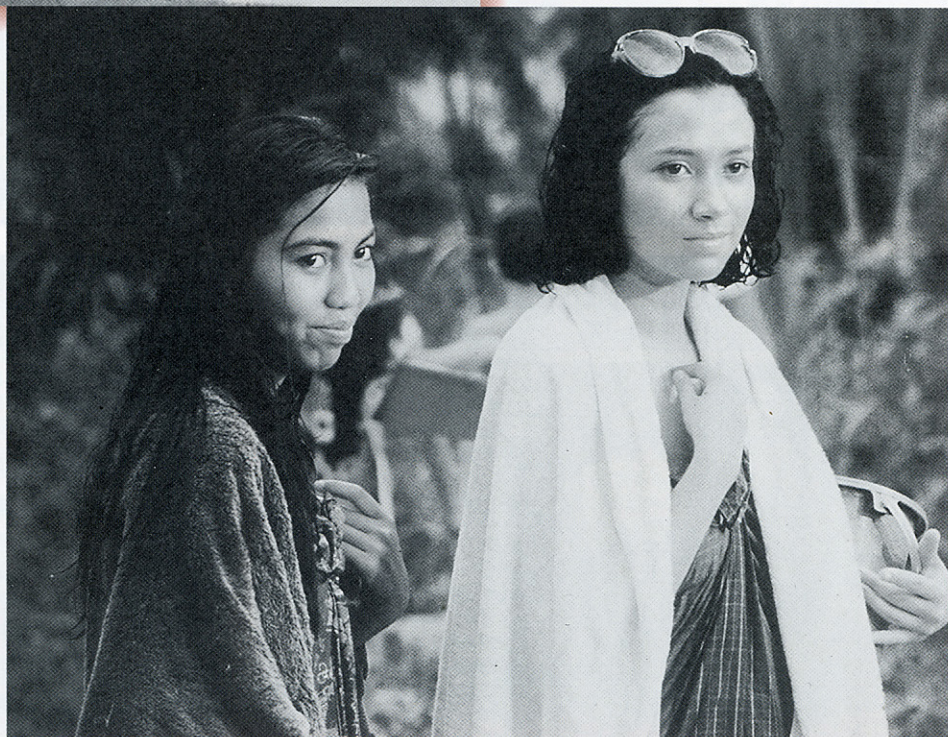
■特集■

日本映画を代表する巨匠
小津安二郎監督特集

マレーシアの
ニューウェーブ監督達
マレーシア映画特集



東京物語



女、妻、そして娼婦

特集 日本映画を代表する巨匠 小津安二郎監督特集

日本の代表的な監督を特集するシリーズ企画。「東京物語」「晩春」等、日本人と家族を描き続けた巨匠・小津安二郎の代表作を特集。

会 期：1月 6日(水)～10日(日)
1月13日(水)～17日(日)
観 料：500円(大人)
400円(大学生・高校生)
300円(中学生・小学生)

※定員制・各回入替制
※チケットはすべて当日券。前売り券はありません。
※福岡市在住の障害者の方は無料。
福岡市在住の65才以上の方は半額。
(手帳の提示が必要です。)



東京物語

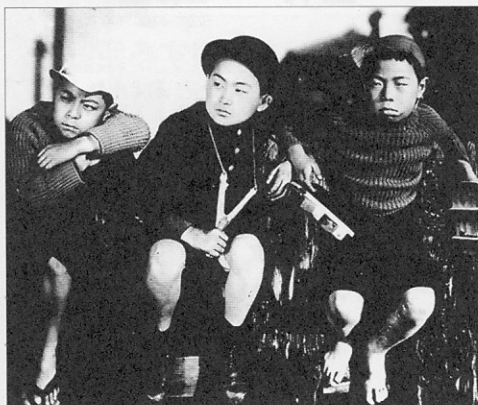
1月7日(木)19:00／1月10日(日)15:00
1月14日(木)14:00／1月16日(土)11:00
東京物語



1953年／35ミリ(モノクロ)／136分)／松竹
監督：小津安二郎
出演：笠智衆、原節子
尾道市に住む老夫婦が、東京に住む息子達を訪ねて上京してくる。子供達は最初は歓迎するがしだいに親がじゃまになり、温泉旅行に行かせてしまう。そんな老夫婦を親身に面倒見るのは、戦死した息子の嫁だけだった。戦後日本の家族生活の崩壊を描いた、小津安二郎監督の集大成的な作品。

1月6日(水)19:00／1月9日(土)11:00／1月15日(金・祝)15:00

生まれてはみたけれど



1932年／35ミリ／モノクロ [サイレント](93分)／松竹
監督：小津安二郎
出演：斎藤達雄、吉川満子

東京近郊に住むサラリーマン一家を舞台にした、父親と小学生の子供達の物語。普段家の中でいばっている父親が、会社の上司の前でベコベコする姿を見た子供達は父親に失望するというユーモア溢れる作品。小津安二郎監督戦前の代表作で、日本のサイレント映画の傑作として海外にも知られる作品。

1月8日(金)14:00／1月13日(水)19:00／1月17日(日)11:00

早 春



1956年／35ミリ／モノクロ(145分)／松竹
監督：小津安二郎
出演：岸恵子、池田良

30代の夫婦である正二と昌子の物語で、二人には子供がなく、夫婦の仲は倦怠期に入っていた。そんなある日正二は会社の若い女性と関係してしまふ。小津監督には珍しく戦後派の夫婦と、彼らの同僚との会社での交友関係等をきめ細かに描いた作品。

1月6日(水)14:00／1月9日(土)15:00／1月15日(金・祝)11:00

晩 春



1949年／35ミリ／モノクロ(108分)／松竹
監督：小津安二郎
出演：笠智衆、原節子

小津安二郎が自らのスタイルを確立した作品。北鎌倉に住む笠智衆が演じる大学教授には一人娘(原節子)がおり、なんとか結婚させるため見合いをさせようとする。一人暮らしとなる父を心配する娘と父の心の交流が、無駄を省いた簡潔な画面とセリフで描かれていく。

1月8日(金)19:00／1月13日(水)14:00／1月17日(日)15:00

秋刀魚の味



1962年／35ミリ／カラー(133分)／松竹
監督：小津安二郎
出演：笠智衆、岩下志麻

初老のサラリーマンである父はなかなか結婚しない娘のことが心配である。父は同僚から娘の見合いを勧められ、縁談はもたつきながらもとり、やがて娘は嫁いでいく。小津作品では何度も描かれる状況だが、父親役の笠智衆はその作品にもまして素晴らしい。本作は小津監督の遺作となった。

1月 7日(木)14:00／1月10日(日)11:00
1月14日(木)19:00／1月16日(土)15:00

麦 秋



1951年／35ミリ／モノクロ(125分)／松竹
監督：小津安二郎
出演：笠智衆、原節子

北鎌倉に住む間宮家には老夫婦と病院に勤める息子夫婦、息子夫婦の子供が二人、そして28才になる独身の娘・紀子がいた。紀子の親や兄は紀子の結婚について悩むが、本人はあまり乗り気でない。「晩春」や「東京物語」と並び称される小津安二郎監督の傑作で、最高作と評価するファンも多い作品。

映像ホール・シネラ来月予告

2月3日(水)～2月7日(日)

韓国映画の巨匠、ユ・ヒョンモク監督特集

上映作品：「誤発弾」「金葉局の娘たち」「修学旅行」「長雨」

2月10日(水)～2月14日(日)

亀井文夫監督特集

上映作品：「上海」「戦う兵隊」「日本の悲劇」「生きていてよかった」
「生物みなトモダチ——トリ・ムシ・サカナの子守歌」

2月17日(水)～2月21日(日)、2月24日(水)～2月26日(金)

インド娯楽映画の世界

上映作品：「この命踊りに捧げて」「ガンジスの流れる国」「黒いダイヤ」
「カランとアルジュン」「火」「雨季」「ボビー」「私はピエロ」

特集 マレーシアのニューウェーブ監督達

マレーシア映画特集

期待の新星、ウ=エイ・ビン・ハジサアリ監督の登場により変化の兆しをみせる、現代マレーシア映画特集

会期：1月20日(水)~24日(日)
1月27日(水)~29日(金)

観覧料：500円(大人)
400円(大学生・高校生)
300円(中学生・小学生)

※定員制・各回入替制
※チケットはすべて当日券。前売り券はありません。
※福岡市在住の障害者の方は無料。
福岡市在住の65才以上の方は半額。
(手帳の提示が必要です。)



女、妻、そして娼婦

1月20日(水)14:00 / 1月22日(金)19:00

ベールの人生 Veil of life

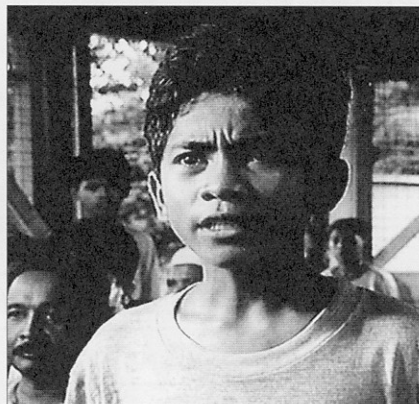


1992年/35ミリ/カラー(105分)
/マレーシア[日本語・英語字幕付き]
監督：シュハイミ・ハバ
出演：M・ナスイル、
ディーンナ・ユソフ

学生のマストウラは戦争難民を救う活動に加わり、サルダール教授とともにパレスチナから子供達を受け入れるキャンペーンを計画する。しかしキャンペーン会場はテロリストの爆破にあい、マストウラは怪我をしよう。表現主義的な凝った映像で描かれており、マレーシア芸術派の台頭を知らしめた作品。

1月21日(木)19:00 / 1月23日(土)11:00 / 1月28日(木)14:00

放火犯 The arsonist



1994年/35ミリ/カラー(70分)
/マレーシア[日本語・英語字幕付き]
監督：ウ=エイ・ビン・ハジサアリ
出演：ハリット・サレ、
アジザ・マザン

ジャワ人としての誇りと伝統を重んじるカカン一家は、様々な迫害に耐えながら暮らしていた。息子のクスマは父を尊敬していたが、カカンは差別に耐えかねて雇い主の納屋に放火してしまう。マレーシアにおけるジャワ人への差別を描いた問題作で、初めてカンヌ映画祭へ招待されたマレーシア映画。

1月22日(金)14:00 / 1月24日(日)11:00 / 1月29日(金)19:00

ジミ・アスマラ Jimi asmara



1994年/35ミリ/カラー(105分)
/マレーシア[日本語字幕付き]
監督：エルマ・ファティマ
出演：ハニ・モフセン
ラヒム・アズラ

1950年代から60年代、独立当時のマレーシアを舞台にして、当時人気を博した歌手ジミ・アスマラの生涯を描いた作品。まだ植民地時代の雰囲気が残るマレーシアで、ジミ・アスマラとジミに恋する女性ウルク・イライニの許されざる愛が、女性監督らしい繊細な描写で描かれる。

1月20日(水)19:00 / 1月27日(水)14:00

トゥア Tuah



1989年/35ミリ/カラー(122分)
/マレーシア[日本語字幕付き]
監督：アンワーディ・ジャミル
出演：ジャマル・アブディラ、
ムスタファ・マロフ

15世紀マラッカ王国の忠臣、ハン・トゥアは今でもマレーシアで人気のある歴史上のヒーローである。本作はハン・トゥアが現代にタイムスリップして大騒動を巻き起こすというSF的な作品である。ハン・トゥア役のジャマル・アブディラは当代理の人気スターで、映画の挿入歌も歌っている。

1月23日(土)15:00 / 1月27日(水)19:00 / 1月29日(金)14:00

愛しのサルマ Sayang salmaha



1995年/35ミリ/カラー(123分)
/マレーシア[日本語字幕付き]
監督：マハーディ・ムラー
出演：アスハ・スライマン、
ファウズィア・ナウイ

1950年代、マレーシア独立当時を舞台とし、ある家族の崩壊を描いた作品。独立運動を展開する父と長男の意見の対立、父の死そして長男の逮捕、次男の結婚から母の死と、激動する時代の中で翻弄される家族の大河ドラマである。当時の音楽やファッションと共に、独立に対するマレー人の葛藤が描かれる点が興味深い。日本初公開。

1月21日(木)14:00 / 1月24日(日)15:00 / 1月28日(木)19:00

女、妻、そして娼婦 Woman, wife, and whore



1993年/35ミリ/カラー(118分)
/マレーシア[日本語字幕付き]
監督：ウ=エイ・ビン・ハジサアリ
出演：ソフィア・ジェーン、
ナシル・ビラン・カン

結婚式の日に逃げ出したザレハは婚約者アミロに捕まって売春宿に売られてしまう。ところが機転をきかせたザレハは正式にアミロと結婚し、村に帰ってくる。自由奔放なザレハは平気で不倫をしてしまう。ウ=エイ監督のデビュー作で、公開とともに、国内でセンセーショナルな話題となった作品。

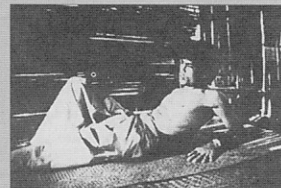
80年代から90年代のマレーシア映画について

80年代マレーシア映画界には大きな変化がおきた。まず80年に始まったマレーシア映画の傑作を紹介するマレーシア映画祭の開催。また映画製作振興を目的としたマレーシア映画振興公社が81年に設立される。87年には著作権法が施行されている。89年にはマレーシア・フィルムアカデミーで映画講座が始まり、映画製作の学位が取得できるようになった。これらの環境の変化により、80年代は年間約12本ほどが製作され、観客数は年々増え続けた。

映画監督もニューウェーブと言われる若い人たちが登場する。アメリカやイギリス、インドで映画を学んだ監督たちが、これまでのマレーシア映画と違うスタイルの作品を作り始める。スティーブン・テオ監督の「ベジャライ」やナスイル・ジャニ監督の「ストリート・シンガー」等がこれにあたる。

90年代マレーシア映画の製作本数はさらに増え続け、年間20本以上の映画が製作されるようになる。これに伴い映画プロデューサーには税金の払い戻しが行われるなどの優遇措置も実施される。

80年代にデビューしたニューウェーブの監督達の多くは海外に活躍の場を求めて去っていったが、その後新たな監督達が登場する。「女、妻、そして娼婦」のウ=エイ・ビン・ハジサアリ監督や「ベールの人生」のシュハイミ・ハバ監督がその好例である。彼らは第2次のニューウェーブと言われ、第1次のニューウェーブ監督達よりもさらに洗練された感覚と映像美を身につけている。「愛しのサルマ」「ジミ・アスマラ」等の作品にも、そういった新しいマレーシア映画の息吹を十分に感じることができる。



ベジャライ

▼ 映像ホール・シネラスケジュール

月	日	曜	内 容
1	1	金・祝	休 館 日
	2	土	休 館 日
	3	日	休 館 日
	4	月	休 館 日
	5	火	上映はありません
	6	水	小津安二郎監督特集 14:00 晩春 19:00 生まれてはみたけれど
	7	木	14:00 麦秋 19:00 東京物語
	8	金	14:00 早春 19:00 秋刀魚の味
	9	土	11:00 生まれてはみたけれど 15:00 晩春
	10	日	11:00 麦秋 15:00 東京物語
	11	月	休 館 日
	12	火	上映はありません
	13	水	小津安二郎監督特集 14:00 秋刀魚の味 19:00 早春
	14	木	14:00 東京物語 19:00 麦秋
	15	金・祝	11:00 晩春 15:00 生まれてはみたけれど
	16	土	11:00 東京物語 15:00 麦秋
	17	日	11:00 早春 15:00 秋刀魚の味
	18	月	休 館 日
	19	火	上映はありません
	20	水	マレーシア映画特集 14:00 ベールの人生 19:00 トゥア
	21	木	14:00 女、妻、そして娼婦 19:00 放火犯
	22	金	14:00 ジミ・アスマラ 19:00 ベールの人生
	23	土	11:00 放火犯 15:00 愛しのサルマ
	24	日	11:00 ジミ・アスマラ 15:00 女、妻、そして娼婦
	25	月	休 館 日
	26	火	上映はありません
	27	水	マレーシア映画特集 14:00 トゥア 19:00 愛しのサルマ
	28	木	14:00 放火犯 19:00 女、妻、そして娼婦
	29	金	14:00 愛しのサルマ 19:00 ジミ・アスマラ
	30	土	自主上映「蛇の道」「蜘蛛の瞳」(予定)
	31	日	休 館 日

※満席の場合、入場をご遠慮いただく場合がございますので御了承ください。

各団体の自主上映

1月30日(土)「蛇の道」「蜘蛛の瞳」(予定)
主催・お問い合わせ：電ノコニ刀流
TEL 092-856-9861

※自主上映事業の上映時間、内容など詳細については直接主催者にお問い合わせください。

ビデオ編集技術研修室のご案内

ビデオ研修室では、家庭で撮影された8ミリビデオや各行事の記録ビデオの編集などにご利用できます。
(使用料1時間500円、連続使用3時間迄)
※詳しくは福岡市総合図書館映像資料課まで

ギャラリー展示

11月3日(火)～12月23日(水)
「英国祭'98『映画の誕生』と英国映画」展
会 場：福岡市総合図書館1階ギャラリー
観覧料：無料

福岡市総合図書館では、英国祭'98の一環として、ギャラリーで「『映画誕生』」を開催しています。『映画誕生』では映画前史の各種のムービング・イメージからリュミエールのシネマトグラフまでをゾートロップなどの映像装置のレプリカやビデオを加えて、コンパクトに解説した展示物です。この『映画誕生』に現代英国映画のポスターなど併せて展示しています。

シネラNEWS送付のご案内

シネラで上映する作品の紹介や上映スケジュール、図書館で開催される各種イベント等の情報を掲載した「シネラNEWS」を毎月お届けします。定期購読を希望される方は申込月号より99年3月号迄の月数分の郵便切手(90円切手×月数分)を同封して下記宛先までお申し込みください。

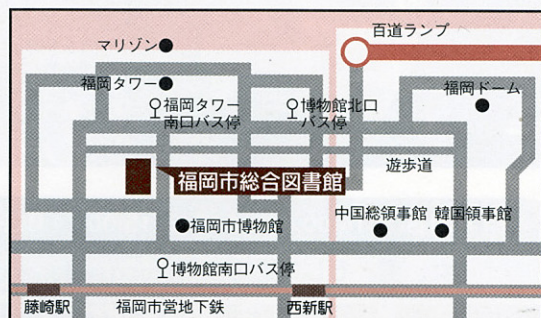
宛先：〒814-0001 福岡市早良区百道浜3丁目7番1号
福岡市総合図書館映像資料課まで

映像ホール利用申し込みについて

平成11年5月以降映像ホールで図書館の企画上映がない下記の期間は、映像ホールを有料で利用することができます。(但し映像文化の普及振興を目的とした非営利の映写会の利用に限る)

期間：平成11年5月26日(水)～5月30日(日)
平成11年6月23日(水)～6月27日(日)
5/26～5/30は12月2日(水)11時より受付
6/23～6/27は1月6日(水)11時より受付

利用に関しては条件等がございますので、詳しくは福岡市総合図書館映像資料課TEL:092-852-0608までお問い合わせください。



交通機関：地下鉄西新駅および藤崎駅より徒歩15分
西鉄バス博物館南口および
福岡タワー南口バス停留所より1分
都市高速百道ランプより車で2分



Fukuoka City Public Library Movie Hall Ciné-la

福岡市総合図書館映像ホール・シネラ

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3丁目7番1号

印刷：(株)ドミックスコーポレーション

お問い合わせは

福岡市総合図書館(代): 092-852-0600 映像資料課: 092-852-0608 Fax: 092-852-0609

R30

古紙配合率90%再生紙を使用しています